

十訓抄『安養の尼』定期テスト対策問題（問題編）

組 番 氏 名

／100点

本文

横川（よかわ）の恵心僧都（ゑしんそうづ）の妹、安養の尼のもとに強盗入りて、あるほどの物、みな取りて出でにければ〔①〕、尼上は紙衾（かみぶすま）といふものばかりを引き着て居（ゐ）られたる〔②〕に、姉なる尼のもとに、小尼公（こあまぎみ）とてありけるが、走り参りて見ければ、小袖を一つ落としたりけるを取りて、「これ落として侍（はべ）るなり〔③〕。奉れ〔④〕」とて、持て来たりければ、尼上のいはれける〔⑤〕は、

「これを取りて後（のち）は、わが物とこそ思ひつらめ〔⑥〕。主（ぬし）の心ゆかぬものを
ば、いかが着るべき〔⑦〕。なほ持ておはしまして〔⑧〕、取らせ給（たま）へ〔⑨〕」

とありければ、門の方へ走り出でて、「やや」と呼び返して、「これを落とし給ひぬ。たしかに奉らん〔⑩〕」と言ひければ、盗人ども立ち止まりて、しばし案じたる気色（けしき）にて〔⑪〕、「悪（あ）しく参りにけり〔⑫〕」とて、取りたりける物どもを、さながら〔⑬〕返し置きて帰りにけり〔⑭〕。

設問

1. 現代語訳

- 傍線部①「あるほどの物、みな取りて出でにければ」を現代語訳しなさい。
- 傍線部⑥「わが物とこそ思ひつらめ」を、主語を補って現代語訳しなさい。
- 傍線部⑦「主の心ゆかぬものをば、いかが着るべき」を現代語訳しなさい。

2. 文法・敬語

- 傍線部②「居られたる」の「られ」は何の助動詞か。文法的意味（種類）を答えなさい。
- 傍線部④「奉れ」、傍線部⑨「取らせ給へ」の敬語について、それぞれ敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）を答えなさい。
- 傍線部⑧「持ておはしまして」の「おはします」は、ここではどのような敬語（種類）か答えなさい。
- 傍線部⑥「わが物とこそ思ひつらめ」について、文末が「らめ」と已然形になっているのはなぜか。文法的に説明しなさい。
- 傍線部③「侍るなり」の「侍る」の敬語の種類を答えなさい。

3. 語句

9. 傍線部⑬「さながら」の、ここでの意味を答えなさい。

10. 傍線部⑪「案じ（案ず）」、傍線部⑪「気色」の、ここでの意味をそれぞれ答えなさい。

11. 傍線部⑫「悪しく参りにけり」を、盗人の心情がわかるように現代語訳しなさい。

4. 内容理解

12. 傍線部⑦「主の心ゆかぬものをば、いかが着るべき」とあるが、ここで尼上が言う「主」とは誰のことか。本文に即して答えなさい。また、この言葉から読み取れる尼上の人柄を説明しなさい。

13. 傍線部⑩・⑭の流れについて、盗人たちが盗んだ物を「さながら返し置きて帰りにけり」となったのはなぜか。盗人の心の動きをふまえて説明しなさい。

5. 文学史

14. この話が収められている『十訓抄』の成立した時代（区分）と、作品のジャンル（種類）を答えなさい。また、この安養の尼の説話とほぼ同じ内容の類話が収められている、鎌倉時代の代表的な説話集の名を一つ答えなさい。